

(様式 2)  
議事録番号

提出 2026 年 3 月 16 日

## 会合議事録

研究会名：核共鳴散乱研究会  
日 時：2026 年 3 月 6 日  
場 所：京都大学複合原子力科学研究所 事務棟大会議室  
出席者：(議事録記載者に下線)  
計 28 名 (オンライン参加 5 名含む)  
北尾真司 (京都大学複合原子力科学研究所)

議題：第 19 回核共鳴散乱研究会

議事内容：

核共鳴散乱研究会は例年に慣例に従い 3 月初旬に開催され、最先端の研究や最近の研究動向、施設側の現状報告などについての発表の後、総合討論を実施する形式で実施した。本年は 3 月 6 日に京都大学複合原子力科学研究所において、オンラインも併用して開催した。なお、研究会の前日 3 月 5 日には「第 5 回メスバウアー産業利用研究会」として同会場で研究会を実施し、主として放射性線源を用いるメスバウアー分光や産業利用を含むメスバウアー分光の分野の拡大について講演や議論を行い、メスバウアー分光の産業利用についての問題点や提案についての議論が行われ、前日から参加した参加者も多い。

本年は、最先端の実験技術とその応用研究として、帝京大学の中村真一氏による放射光メスバウアー回折の研究成果や、量研機構の三井隆也氏による円偏向スイッチングを用いた放射光メスバウアー分光、住友ゴムの間下亮氏による時間領域干渉計によるポリマーダイナミクスの研究について講演していただいた。

また、オペランド測定や極端条件下による研究について、東京大学の岡林潤氏による外的応力を印加した状態のメスバウアー分光、立教大学の小島憲道氏による低温高压下の Au 化合物の研究、弘前大学の増田亮氏による 80GPa 水素圧力下の Eu 水素化物の研究について講演していただいた。

さらに、近年の顕著な成果として兵庫県立大学の河智史朗氏による鉄系超電

導体のフォノンの研究や、研究施設側として JASRI の永澤延元氏に施設と研究  
アクティビティの現状について紹介いただいた。

総合討論では、SPring-8 の将来計画や核共鳴散乱の現状、問題点などについて  
忌憚のない議論が交わされた。特に本研究会においては、核共鳴散乱の多くの  
実験で必須となるバンチ構造について事前にアンケートを実施し、SPring-8-II  
のバンチ構造についての議論を中心として実施し、施設側への要望として研究  
会としてどのように取り組むかについて活発な議論が行われた。